

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

未来に向かって

輝く二十歳

齋藤 航大 さん（保原地域）

学業と仕事の二足のわらじを履きながら趣味の写真撮影を行う齋藤航大さん。将来の夢に向かって歩みながら、趣味の写真も極めようとする齋藤さんに、カメラとの出会いや写真への想いを伺った。

二十歳を迎えて

二十歳を迎え、これまで多くの方々に助けられ、職場の先輩や友人に支えられてきました。今までは守られてきましたが、今後は自分の言動に責任を持たなければなりません。20年間支えてくれた方々への感謝の気持ちと自己責任の重さを感じています。

カメラとの出会い

祖父の家に一眼レフカメラがあって、小さな頃から興味がありました。小学校の低学年の頃に祖父の使わなくなったカメラを借りて撮影したら、楽しくてはまりました。中学校の時の国語の教材で、写真家の星野道夫さんが撮影したアラスカの写真



撮影する齋藤さん



Profile ●
さいとう
こうだい

を見て、こんな写真を撮りたいと写真への想いがさらに強くなりました。仕事に就き、ようやく自分のカメラを手にすることができ、憧れだった写真撮影ができるようになりました。

人の心を動かす写真が撮りたい

現代の写真家の写真を参考にしながら、自分が思ったように表現できる写真を撮りたいと考えています。朝日を撮影する時は、前日の夜から撮影場所に入り準備を行います。必ずいい写真が撮れるとは限りませんが、でも、何回も通って、撮影場所や構図、撮影方法を考えて、納得のいく写真が撮れた時の感動やうれしさは、何事にも代えがたい喜びを味わうことができます。それが写真の魅力であり、

写真撮影で正解だと思える写真は、自分の中にしかないと思っています。

高校の研修で、高子二十境を巡った時に地元にもたくさんの方々の魅力があると感じました。その他にも、やながわ希望の森公園の桜や霊山もすてきな写真スポットだと思います。自然が大好きなので、山に登って撮影したり、さらに自然風景の写真の幅を広げていきたいです。

将来の夢は、「前田真三賞（※）」を受賞することや、人の心を動かすような写真が撮影できるようにしたいです。そして電気工事士や電気工事施工管理技術者の資格を取って電気関係の仕事がしたいです。



齋藤さんが撮影した保原町八幡町から半田山方面に沈む夕日

※前田真三賞：2年がかりで審査され、継続的に風景の魅力を伝えるなど作家性を競う写真賞